

自由興味広がる批判

「野党のつらいは

何一つ聞かない」「政治に关心がない生きていいひとは良い国だ」。自民党の国会議員や閣僚から國民の声を軽視する発言が相次いでいます。



山際大志郎経済再生担当相

担当相は「自民党候補の八戸市で自民党候補の応援をした際、「野党の人からの話はわれわれ政府は何一つ聞かない。生活を本当に良くしてや」と思うなら、自民党、与党の政治家を誠實にしなくてはいけない」と発言。選舉も議会民主主義



麻生太郎副総裁

「政治関心なくとも生きていけるのは良い国」

の根本を否定する発言に批判が広がっています。

JR東海、三陸鉄道5日の記者会見でも「誤解を招く発言になった」「丁寧に発信していく」などと述べ、発言の撤回を拒否しています。

一方、麻生太郎副総裁は、1日の三重県桑名市内の講演で「政治に关心がないのはけしからん」とえりそつに語りました。しかし「政治に関心を持たなって生きていけるといふのは良い国だ」と発言したことじられました。

民主主義回復へ参院選で審判を

うのを「憲政觀」といいます。民は馬鹿であり、馬鹿でなくては困る」という考え方。「麻生氏の発言は権力者の願望を過度に」「などとの批判的なツイートがあふれ、炎上しています。

政権を批判する国民や野党の声を聞かず、國民が政治に関心を払わなくなる」といひ、独裁国家への道です。

選舉の最中に、自民党からこんな発言が次々と飛び出しているにもかかわらず、まともな反省も示されないのなら、民主主義の危機をさらに助長することになりかねません。

健全な民主主義を取り戻すためにも、参院選で、選舉政治の上であぐらをかく自民、公明の与党に國民の明確な審判を下すことが求められます。

(佐藤高志)